

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	企画文化局
-----------	-------

基本計画	柱	暮らしを彩る	担当局 / 総務担当課名	企画文化局	企画課
	大項目	生活に根づき_誇れる文化・スポーツの振興			
	取組みの方針	芸術・文化の振興			
	連絡先	582 - 2153			

21年度計画

-2-(2)-

施策名	市民が芸術・文化に接する機会の拡大
------------	-------------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	北九州芸術劇場、響ホール、美術館、市民や企業が保有する絵画の展示などの活動を通じ、市民が日常生活の中で多様な芸術・文化に接し、芸術・文化活動をしている人たちと交流できる機会を拡大します。また、地元ゆかりの漫画家とその作品を中心に漫画の魅力幅広い世代に伝える拠点施設を整備します。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	芸術・文化の振興

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値		
	年度	H20年度	計画	実績		年度	H25年度	
北九州芸術劇場・公演事業入場率	年度	H20年度	計画	-	%	年度	H25年度	
	現状値	85%	実績	95	%	目標値	90%	
	良質な舞台芸術を提供する北九州芸術劇場・公演事業の入場率が、演劇分野における芸術・文化に接する機会の指標にふさわしいため設定しています。		達成度			%		
	年度	H20年度	計画	-	%	年度	H25年度	
	現状値	71%	実績	74	%	目標値	80%	
	音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かし、質の高い音楽鑑賞の機会を提供する響ホール事業の入場率が、音楽分野における芸術・文化に接する機会の指標にふさわしいため設定しています。		達成度			%		
「松永文庫」入場者数	年度	H21年度	計画	-		年度	H25年度	
	現状値	4,355名	実績	4,355	名	目標値	11,500名	
	「松永文庫」の入場者数が、映画や映画を通した生活文化に接する機会の指標にふさわしいため設定しています。		達成度			%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]	事業費	261,095 千円		構成事業にかかった人件費の目安(21年度)			
		うち一般財源	230,217 千円		39,240 千円			

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	北九州芸術劇場や響ホール、松永文庫などを中心に様々な分野の芸術・文化事業を実施し、概ね当初の目標を達することができました。特に演劇分野においては、北九州芸術劇場・公演事業の入場率が95%に達するなど、多くの市民に高質な演劇にふれる機会を提供することができています。 また、松永文庫についても、H21年11月に開館して5ヶ月間で約4,300人の入場者があり、順調な滑り出しができました。
今後の局施策の方向性	経済性や効率性を意識しながら、今後も現在実施している事業を中心に、演劇、音楽など様々な芸術・文化にふれる機会を市民に提供していく必要があります。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価 下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。
また、芸術・文化に接する機会が現状どういったレベルにあって、それをどのレベルまでしたいのかを今後明らかにする必要があります。

施策名 市民が芸術・文化に接する機会の拡大

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
芸術文化活性化事業(劇場・公演事業、響ホール事業)			141,743 千円	3,660 千円	裁量的経費・義務的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			141,310 千円						
北九州国際音楽祭			40,000 千円	1,680 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			20,000 千円						
(仮称)北九州市漫画ミュージアム開設準備事業			30,193 千円	30,000 千円	重点経費			ウ	
事業費のうち一般財源			19,748 千円						
「松永文庫」運営事業			14,536 千円	2,400 千円	重点経費			ウ	
事業費のうち一般財源			14,536 千円						
文化情報提供事業			34,623 千円	1,500 千円	裁量的経費			ア	
事業費のうち一般財源			34,623 千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
	261,095 千円	39,240 千円
施策全体の事業費のうち一般財源	230,217 千円	

局施策の
21年度評価

A

【局施策評価】
A:大変良い状況にある
B:概ね良い状況にある
C:概ね良い状況とまでは言えない
D:不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根つき誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	市民が芸術・文化に接する機会の拡大

関連計画	
事業期間	前者:平成15年度~、後者:平成5年度~
経費区分	裁量の経費・義務的経費

-2-(2)-

事業名	芸術文化活性化事業(劇場・公演事業、響ホール事業)	
-----	---------------------------	--

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか、	[劇場・公演事業]ラインナップの充実を図ることで観客層を拡大し、都市の賑わいとシティブランドを創出し、市民生活に潤いと誇りを提供します。 [響ホール事業(企画事業)]国内外の一流の演奏家や国内外で活躍する地元出身の演奏家等の起用を通じて、本物の音楽に触れる機会を提供します。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民が芸術・文化に接する機会の拡大	成果

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	劇場・公演事業 入場率 95% 響ホール事業・ 企画事業入場率 74%	劇場・公演事業 入場率 90% 響ホール事業・ 企画事業入場率 75%	劇場・公演事業 の入場率 90% 響ホール事業・ 企画事業の入場率 78%	劇場・公演事業 入場率 90% 響ホール事業・ 企画事業入場率 78%	劇場・公演事業 入場率 90% 響ホール事業・ 企画事業入場率 80%				
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		北九州芸術劇場・公演事業入場率						計画	-	年度	平成25年度
		良質な舞台芸術を提供する北九州芸術劇場・公演事業の入場率を指標とします。						実績	95%	内容	90%
		響ホール事業・企画事業入場率						達成度	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月(21年度:執行額)						事業費	141,743 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	141,310 千円	3,660 千円		
単年度計画											

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	[劇場・公演事業]全体で42回の招聘公演を行いました。幅広く色々なジャンルの作品を網羅してラインナップすることが功を奏し、入場率が95%(前年度85%)を超え、多くの人に舞台芸術を鑑賞する機会を提供いたしました。 [響ホール事業(企画事業)]「響ホールフェスティバル」、「響シリーズ」、「響ホールへようこそ」の3事業を実施し、それぞれの趣旨、目的の観点から、一定の成果を挙げることができました。
------	-------------------------------------	--

事業の再検証			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	北九州劇場・公演事業、響ホール事業・企画事業はともに、さまざまなラインナップ公演を提供しており、施策目標「市民が芸術・文化に接する機会の拡大」に対する有効性は高いと考えられます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	北九州劇場・公演事業、響ホール事業・公演事業はともに、市の外郭団体が行っており、市が直接運営するより、コスト面で経済的な運営ができています。引き続き、さらに、経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	北九州劇場・公演事業、響ホール事業・公演事業はともに、さまざまな公演を実施することで、上位施策の実現への高い成果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	3	本市において、本事業と同様にさまざまなラインナップを提供する民間企業等は少ないので、市が関与することは適切であると考えられます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	北九州劇場・公演事業、響ホール事業は、本市を代表する文化事業として、市内外へ大きく情報発信をするとともに、地域の文化力向上に大きく寄与しており、「市民が芸術・文化に接する機会の拡大」を図っていく上で、重要な事業であると考えています。今後も目標の達成に向けて着実に取り組みを進めていくことが適当であると考えます。 ただし、引き続き、経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根つき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	市民が芸術・文化に接する機会の拡大

関連計画	
事業期間	昭和63年度～
経費区分	裁量的経費

-2-(2)-

事業名	北九州国際音楽祭
-----	----------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本事業は、「総合音楽祭」の確立、芸術性の追求・発信、「北九州らしさ」の創造、顧客満足度の向上、若者世代の取り込み、情報発信の強化を掲げ、その実現を目指して取り組んでいます。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民が芸術・文化に接する機会の拡大	成果	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	入場者数 11,113人 満足度 83%	入場者数 11,500人 満足度 85%	入場者数 11,500人 満足度 85%	入場者数 11,500人 満足度 85%	入場者数 11,500人 満足度 85%				
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		北九州国際音楽祭の入場者数						計画	-	年度	平成25年度
		本事業のプログラム 有料プログラム、教育プログラム、特別プログラム、協賛事業の入場者数を指標とします。						実績	11,113 人	内容	12,000人
北九州国際音楽祭の満足度の割合						計画	-	年度	平成25年度		
来場者のコンサートの満足度の割合を指標とします。						実績	83 %	内容	85%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]	事業費					40,000 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)			
		うち一般財源					20,000 千円	1,680 千円			
単年度計画											

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	ドイツの名門オーケストラ・ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団によるコンサート、本市出身等の演奏家によるオープニングコンサート「ガラ・コンサート」、海外の国際ピアノ・コンサートで、日本人で始めて優勝した盲目のピアニスト・辻井伸氏のコンサートなどを実施し、入場者11,113人を集め、83%の入場者(有料コンサート)が「良かった」と回答しており、大変好評でありました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	北九州国際音楽祭は、良質なコンサートを多く実施しており、施策目標「発信力の高い芸術・文化の振興」に対する有効性は高いと考えられます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3 市の外郭団体が実行委員会の事務局を担っており、市が直接運営するより、コスト面で経済的な運営ができています。引き続き、さらに、現状よりもさらに経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	3 本市を代表する音楽イベントである国際音楽祭は、歴史もあり、知名度もある音楽祭を入場者数も多い。継続的に実施しないと今までの積み重ねが無くなってしまいます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	4	4 本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を継続的に実施できる純粋な民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えられます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	国際音楽祭は、本市を代表する文化事業として、市内外へ大きく情報発信をするとともに、地域の文化力向上に大きく寄与しており、「市民が芸術・文化に接する機会の拡大」を図っていく上で、重要な事業であると考えています。今後も目標の達成に向けて着実な取り組みを進めていくことが適当であると考えています。ただし、引き続き、経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点：-	B時点：-	C時点：22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	市民が芸術・文化に接する機会の拡大

関連計画	
事業期間	平成19年度～
経費区分	重点経費

-2-(2)-

事業名	(仮称)北九州市漫画ミュージアム開設準備事業
-----	------------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市は、松本零士氏、畑中純氏、わたせせいぞう氏、北条司氏など著名な漫画家を数多く輩出している地域です。これらの作家・作品を地域の重要な資源として活用し、さまざまな漫画の魅力幅広い世代に伝える漫画文化の拠点施設「(仮称)北九州市漫画ミュージアム」を開設します。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民が芸術・文化に接する機会の拡大	成果	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	設置場所決定 イベント実施	基本・実施設計	設置工事	開館				
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）						平成21年度	目標	
		開設準備					計画	-	年度	平成24年度
		開設のために、設置場所の決定、設置工事、展示作成等を行います。					実績	設置場所決定	内容	開館
						達成度	%	内容		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度：執行額]						事業費	30,193 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度) 30,000 千円	
							うち一般財源	19,748 千円		
単年度計画										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	21年度は、当初開設場所と予定していた第2チャタタウンの事業着手延期の連絡が9月にあり、開設場所の検討を行ったところです。ビル所有者の「漫画ミュージアムを核として、ビル全体を漫画による統一コンセプトビルとして再生し、北九州市と日本の新たなシンボリック施設にする。」という提案を高く評価し、小倉興産21号館ビル(旧ラフォーレ原宿・小倉)に決定しました。 あわせて市立美術館分館で実施した「高橋留美子展」の30日で約2万人の入場者を集めました。また、市に寄託された漫画資料について調査を行い、適正な管理に努めるとともに、メディアドームで開催された「アニうたKITAKYUSHU2010」でも約4,000人の入場者に対し、PRを行うなど効果的な広報に努めました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	集客の見込める開設場所の選定や資料収集、PR事業の実施など漫画ミュージアムの開設に必要な事業を実施しました。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	年度途中より学芸員を採用し、企画展実施の経験を積ませるなど、開館後を見越した事業運営を行っています。また、「高橋留美子展」では約2万人の入場者集めるなど高い効果を得ました。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	クールジャパンといわれ、日本の漫画・アニメという文化のソフトパワーが注目されている現在、今後も本事業を積極的に実施して漫画文化の振興とまちの魅力づくり、賑わいづくりを図る必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	現在のところ他の実施主体は考えられず、実施主体としては市が適切と考えています。地元漫画家など著作権者との関係においても、行政が主体であることが望ましいと考えています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ		本事業は、施策に対する有効性が高く、重要な事業と考えています。今後も目標の達成に向けて着実な取り組みを進めていくことが適切と考えています。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根つき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	市民が芸術・文化に接する機会の拡大

関連計画	
事業期間	平成21年度～
経費区分	重点経費

-2-(2)-

事業名	「松永文庫」運営事業	
-----	------------	--

【目的】 事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	映画や映画を通じた生活文化の貴重な資料である「松永文庫」を展示し、市民が日ごろ馴染みのない映画資料や昔、懐かしいウィークリー(地元映画館の宣伝用パンフレット)などに、気軽に触れる機会を提供するとともに、門司港レトロ地区で館外企画展を実施し、レトロ地区のにぎわいづくりにも寄与することを目指します。	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民が芸術・文化に接する機会の拡大

【手続】 目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	「松永文庫」入場者数 4,355名 (11/3～3/31) 【館外企画展含む】	「松永文庫」入場者数 10,000名	「松永文庫」入場者数 10,500名	「松永文庫」入場者数 11,000名	「松永文庫」入場者数 11,500名				
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		「松永文庫」入場者数						計画	-	年度	平成25年度
		より多くの入場者を増やすために、魅力ある企画展や館外企画展を積極的に実施し、「松永文庫」の周知を図ります。						実績	4,355 人	内容	11,500名
								達成度	%	年度	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]	事業費					14,536 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)			
		うち一般財源					14,536 千円		2,400 千円		
単年度計画											

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	H21.11.3から展示開始を始め5ヶ月間で約3,000人の入場者がありました。松永氏の自宅で展示していた時は、年間で約1,000人の入場者にとどまっておりましたが、市が展示を始めた効果は大きいものがあったと考えています。また、レトロ地区からの観光客も徐々に増加傾向にあり、街のにぎわいづくりに貢献していると考えます。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	入場者のアンケート調査において、貴重な資料を展示しており観ることができて良かったとの肯定的な意見が多く、特に高齢者では、昔懐かしい資料を観ることができ、再度来場したいとの意見が多かった。このように、「市民が芸術・文化に接する機会の拡大」についての貢献度は大きいと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	収蔵品については寄附されているとともに、既設の旧市民センターを活用するなど低コストで施設整備をすることで、運営経費についても、門司市民会館の運営団体に委託することにより管理費などが削減でき、他の市有施設に比べ効率的な運営を行っていると考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	施策の実現のため、積極的に企画展等展開する必要があると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	入場料を無料とし、市民が芸術・文化に接する機会を拡大するためにも、現在の実施主体は市が適当と考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	「松永文庫」の収蔵品は貴重なものであり、文化振興の推進に必要なツールの一つであるとともに、門司港レトロ地区のにぎわいづくりに寄与するために、積極的に企画展等展開していきます。また、関門連携において下関市と合同で企画展の開催を検討するなど、他自治体との交流も検討します。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	市民が芸術・文化に接する機会の拡大

関連計画	
事業期間	昭和52年度～
経費区分	裁量的経費

-2-(2)-

事業名	文化情報提供事業
-----	----------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市の文化振興、まちづくりの総合情報誌として「ひろば北九州」を発行し、市民の文化及び生活の向上に寄与するとともに、多くの市民に文化情報等の提供を実施します。 【発行:年12回(月刊) 購読料(年間):個人会員 3,600円、団体会員 9,000円】		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民が芸術・文化に接する機会の拡大	成果

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	購読会員 個人会員 1,510部 団体会員 240部	事業の継続実施	事業実施内容などの検討						
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		「ひろば北九州」の刊行						計画	-	年度	平成25年度
		より効果的、効率的に市民へ情報提供を行い、芸術・文化に触れる機会の拡大に寄与します。						実績	1,750部	内容	事業実施内容の検討
						達成度	%	年度			
コスト	A時点: - B時点: - C時点: 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	34,623千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	34,623千円	1,500千円		
単年度計画											

【事業の実施結果・進捗状況の確認】		
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	H20の個人会員 1,494部、団体会員 244部から若干会員数は増加しています。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	「ひろば北九州」の刊行により、芸術・文化に接する機会の拡大に寄与していることは、一定の評価は得ていると考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		2	会員数が少ないことにより、市からの助成なしでは刊行できないため、会員数の増加策等の取組みが必要であると考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		2	施策の実現のために、より効果的な事業内容や刊行方法などの検討を要します。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	現在のところ、事業主体は市が適切と考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	昭和53年2月の創刊以来32年が経過しており、創刊時の発行団体である北九州都市協会も現在は存続していません。ついては、「ひろば北九州」の事業内容や刊行方法などの検討の必要があると考えます。